



# ラーチャブルック ร่ำพฤษภ

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

校長 谷口 幸一郎

## 新年度にあたり

学校の周りにはラーチャブルックの花をはじめ多くの花が咲き誇っています。まさにバンコクで一番、自然の息吹を感じる時です。本年度一番のニュースは子供たちが4月から登校ができるようになったことです。始業式、入学式も予定通り開催することができました。また、全員を体育館に集めることはできませんでしたが、令和元年度以前の状況に近づきつつあることはとても喜ばしいことです。

さて、多くの卒業生や教員が本校を離れ、少し寂しい思いをしておりましたが、今年度は年度当初から新しい教員も着任することができました。**児童生徒2,016人、教員173人並びに職員47人**で令和4年度のスタートを切ることができました。職員室は昨年同様、4部屋で低学年部、中学年部、高学年部、中学部としています。昨年度同様に各学級は、すべて25人以下で編制しており、少人数指導の充実を図っていきます。



本年度の教育目標も「**自らの可能性を信じ努力することのできる児童生徒を育成する。**」と設定しています。昨年度までのオンラインによる授業への対応を見ていると、子供たちの適応能力には驚かされます。教員は**子供の隠れた才能に気づき、それを伸ばす足がかりを作ることが**私たちの使命だと考えています。一方で、本校の子供たちの中には、自立できていない、自立させていない子供も見られます。そのため、折角の個性や才能が見えなくなっているケースがあります。例えば、進路決定時に自分が好きなことは何なのか、どこの高校に進学したいのかなど、自分の考えや意思を言えない子供がいるのも事実です。

子供の生きていく時代はこれまでとは違う、私たちの想像を超えた時代になります。AIの発達により生活様式や社会構造も変わっていくと思われま。特に日本の世界におけるポジションは変わってきています。もはや経済大国日本としてあぐらかいていられる時代は過ぎ去っています。その中を生き抜くためには、**様々なことにチャレンジさせることで、子供たちの「できること」を増やしていく必要があります。**知識偏重の時代から実力重視の時代へと変わっているのです。そこで、教育活動においては**SDGsを実践**するとともに、総合的な学習の時間をおとして、「課題を見付け、調べ、発表し、実践する」ことを学ばせていきたいと思ひます。併せて英語教育の充実を図ります。その一環としてこれまでのグローバルイングリッシュに加え、**イマージョン教育を導入**します。イマージョンとは教科の学習を日本語ではなく外国語で行うことです。もちろん、子供の英語のレベルが様々なので、例えば、3年生に1年生の算数をイマージョンで行ってみる。あるいは図工の授業をイマージョンで行ってみるなど、本年度を**イマージョン元年**としていきたいと思ひます。また「**小中連携プロジェクト**」も継続して推進し、小学部、中学部の職員が連携してお互いの資質能力を高め、より質の高い授業を提供できるように、実践を行います。とにかく「**子供ファースト**」(子供のためにどういうことをやったら一番いいのかを考えること。決して子供がしたいことをさせるという意味ではありません。)を基本に、これまでの教育活動を復活させます。

これまでコロナ感染症のためできなかった教育活動を再構築していきたいと考えています。本年度もよろしくお願ひいたします。